

シリーズ「今こそリーマンショックを振り返ろう！」 第一回目 / 日経平均vs住宅着工数

新型コロナウイルスの経済的影響を経済アナリストがいろいろ論じています。リーマンショック級の影響を懸念するアナリストもいるようです。リーマンショックは2008年9月のリーマン・ブラザーズの破綻によって発生した世界的金融危機のことです。もちろんご存知の方が多いとは思いますが、しかし、12年前に起きたことの詳細を覚えている方は少ないのではないのでしょうか。

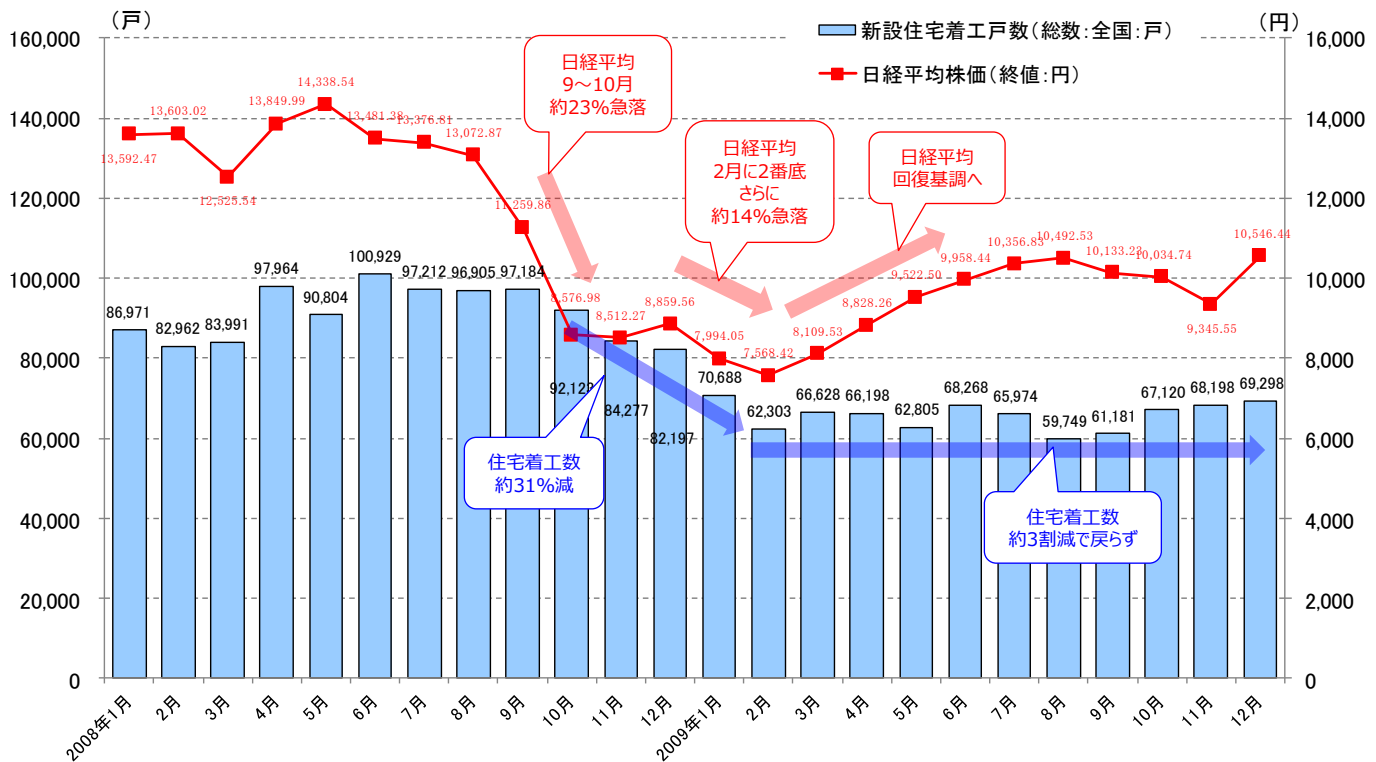
一例として日経平均と住宅投資である住宅着工数を比較しながら、どんな状況であったのかをグラフで見てみましょう。下図をご覧ください。2008年9月から10月まで日経平均は約23%下落しました。その後2009年2月が底で、そこから上昇傾向になっています。

一方、住宅着工数は株価が急落した2008年10月にやや下がり、翌年の2月に底をつけるまで約9万件から6万件まで約31%も下げています。日経平均と異なり住宅着工数は2月から横ばいで推移し、全く上昇が見られません。約30%の需要が消失したことになります。

その後、年90万戸台に回復したのは4年後です。しかも、今に至るまでリーマンショック前の年100万戸台には戻っていません。

もちろん今回もリーマンショックと全く同じことが起きるわけではありません。しかし過去に起きたことを正確に把握して、今に対処することは大変重要です。今回から不定期ではありますが「リーマンショックを覚えていますか？」と題して当時の各種経済データをご紹介します。お楽しみに！！

着工戸数×日経平均株価



※新設住宅着工戸数は国土交通省 建築着工統計調査報告 http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html

※日経平均株価はYahoo!JAPAN ヤフーファイナンス 日経平均株価時系列 <https://stocks.finance.yahoo.co.jp/>

以上をもとに株式会社TSON住宅市場データ室にて作成

※ (2020.4.1 株式会社TSON 住宅市場データ室 小間幸一)

注意事項/本資料は軽い読み物 (コラム) として作成されたもので、投資勧誘を目的とするものではありません。信頼できると考える情報源に基づいたものですが、正確性、完全性に対する責任は負いません。本資料は、その目的いかんを問わず無断で複写、複製、配布することを禁じます。